

自治体・大学の連携に基づく住民・学生参加による「まち歩きマップ」制作活動の効果

森田 哲夫¹・篠原 良太²・稲村 肇³・塚田 伸也⁴・湯沢 昭⁵

¹正会員 東北工業大学 工学部都市マネジメント学科 (〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1)
E-mail:ttmorita@tohtech.ac.jp

²東北工業大学 ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科 (〒982-8588 仙台市太白区二ツ沢6)
³フェロー会員 東北工業大学 工学部都市マネジメント学科 (〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1)

⁴正会員 前橋市建設部公園緑地課 (〒371-8601 群馬県前橋市大手町2-12-1)

⁵正会員 前橋工科大学教授 工学部社会環境工学科 (〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460-1)

仙台市では2015年末に地下鉄東西線の開業が予定され、沿線地域のまちづくりが活発化している。仙台市と東北工業大学は、2014年5月に「まちづくりにおける連携・協力に関する協定」を締結するなど、まちづくりに関する連携を進めている。本研究では、仙台地下鉄東西線の駅周辺のまち歩きマップの制作にあたり、協定に基づく住民・学生参加の効果を評価することを目的とする。本研究におけるマップ制作活動の効果は、関連組織である自治体と大学へ与える効果、市民と学生の評価からみた効果で把握した。自治体と大学への効果については、ワークショップの経緯を分析することにより検証する。市民と学生の評価からみた効果はアンケート調査データより検証した。

Key Words : *citizen participation, town walk, map, local resource, design*

1. はじめに

(1) 研究の目的

全国の多くの大学において、自治体・企業との連携体制や拠点の整備、それに基づくまちづくり活動が推進されている。仙台市では2015年末に地下鉄東西線開業が予定され、沿線地域のまちづくりが活発化している。仙台市と東北工業大学は、2013年5月に「まちづくりにおける連携・協力に関する協定（以下、協定とする）」を締結し、2014年4月に東北工業大学地域連携センターを設立するなど、まちづくり活動における連携を進めている。

本研究は、仙台地下鉄東西線の駅周辺のまち歩きマップの制作活動において、協定に基づく住民・学生参加の効果を評価することを目的とする。マップ作成はワークショップ方式で行われ、住民と学生がまちの魅力を取材しコンテンツを作成し、デザイン系学生によるデザイン班によりまち歩きマップをデザインした。

本研究におけるマップ制作活動の効果は、関連組織である自治体と大学へ与える効果、住民と学生の評価からみた効果で把握するものとする。自治体と大学への効果については、ワークショップの経緯を分析することにより検証する（第2章）。市民と学生の評価からみた効果

はアンケート調査データより検証する（第3章）。

(2) 既往研究と本研究の特色

住民や学生、地域組織の参加によるマップ作成について、既往研究を整理する。

住民と専門家の協働作業による防災マップの作成¹⁾、住民参加型の内水ハザードマップの作成²⁾など、防災に関するマップ作成に関する研究がみられる。また、地域安全マップづくり³⁾など、交通事故からの安全、犯罪からの安心に関するマップ作成に関する研究もみられる。さらに、安全安心マップ作成のワークショップへの参加行動⁴⁾、安全マップの活用要件⁵⁾に着目した研究もみられ、マップ作成の報告にとどまらずに研究課題が進展している。マップの作成方法については、レイヤーを重ねることにより作成する方法⁶⁾、スマートフォンによる位置情報を収集し地図を作成する方法⁷⁾などの報告がある。

上記の既往研究のマップ作成事例のほとんどで、住民参加によるワークショップ方式が用いられている。しかし、ワークショップには学生が参加している事例が多いものの、大学や学生参加に着目した研究はない。また、まち歩きマップのデザインに着目した研究は少ない。

本研究は、仙台市と東北工業大学の協定に基づき、工学系・デザイン系の学生が住民参加のワークショップに

参加し、仙台地下鉄東西線の駅周辺のまち歩きマップの制作する流れを追うことにより、自治体と大学の連携、学生参加によるマップ作成への効果を分析するものである。既往研究との対応における本研究の特色は、1)自治体と大学の連携、学生参加に着目している点、2)デザイン系学生によるマップデザインに着目している点である。

本研究では、徒歩圏程度の範囲を対象とし、来訪者へまちなかの施設、魅力を伝える地図であり、自治体が印刷物として無料配布する1枚もののマップを想定している。

2. 自治体と大学の連携・学生参加による効果

(1) ワークショップの体制

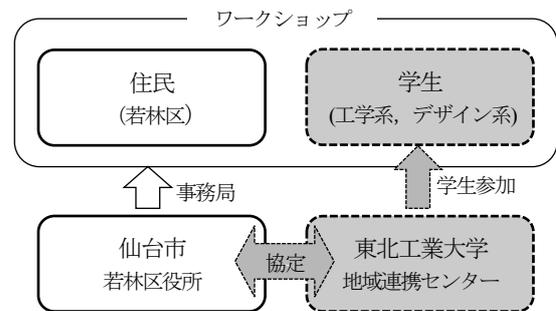
ワークショップの参加者を表-1に示す。住民は、仙台市若林区住民であり、市報を通じ公募した。ワークショップは、若林区中央市民センターで例年開催されている市民講座の1つとして開催した。応募者は通常開催されている講座受講者、いわゆる常連が多くを占めた。ワークショップの事務局は、仙台市若林区まちづくり推進課、若林区中央市民センターが務めた。

2013年5月に仙台市と東北工業大学は協定を結んだため、地域連携センターの事業として取り組むこととなり、協定に基づく第1号のプロジェクトの1つとなった。地域連携センターは、「本学が培ってきた研究資源を活用するとともに、地域と連携し実施する地域振興、産業振興、人材育成等の実践的活動を支援することにより、地域社会に貢献することを目的」として、産学技術交流を主としていた新技術創造研究センターを改組し2014年4月に設立された組織である。

ワークショップに参加した学生は、東北工業大学の工学系、デザイン系の学生である。工学系の学生は、都市マネジメント学科の学部3年生である。都市マネジメント学科は、従来の土木系学科から、「建設、交通、エネルギー、防災などの従来技術に、維持管理、行財政、歴史や文化、住民意見などの多くの要素を統合してマネジメントし、都市の未来を創造する学科」に改組した学科である。プランナーコースとエンジニアコースの2コースがあり、計画系教育に重点を置いたプランナーコースの学生が参加した。デザイン系の学生は、クリエイティブデザイン学科の学部3年生である。クリエイティブデザイン学科は「工学やデザイン領域の枠にとらわれず、芸術的な価値を創り出せるクリエイターの育成」を目指している学科であり、3コースが設置されている。ワークショップには、広告・パッケージ等のデザイン教育に重点を置いたビジュアルデザインコースの学生が参加した。協定に基づき、工学系、デザイン系学生とも授業の一環として、ワークショップに参加することとなった。

表-1 ワークショップ参加者

分類	参加者	対応する組織
住民	仙台市若林区の住民 ・若林区中央市民センターの講座参加者約20名	仙台市若林区役所、 若林区中央市民センター (事務局)
学生	東北工業大学学生 1) 工学系：工学部都市マネジメント学科26名 2) デザイン系：ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科9名	東北工業大学 地域連携センター



網掛は、協定に基づく自治体・大学連携、学生参加の関連部分

図-1 ワークショップの体制



出典：仙台市ホームページ

図-2 仙台地下鉄東西線路線計画

ワークショップの体制を図-1に示す。仙台市と東北工業大学の協定に基づき、学生は地域連携センターを通じ授業の一環として参加する（網掛が協定による学生参加の関連部分）。本章では、自治体と大学の連携による効果について分析することとする。

(2) 対象地域

仙台市は、路線長約13.9km、駅数13の仙台地下鉄東西線の整備を進めており、2015年末に開業予定である（図-2）。仙台市では、沿線まちづくりを推進しており、まち歩きマップ制作はその要請に応えたものである。

まち歩きマップは、地下鉄開業時に、地下鉄利用者に対し駅周辺の施設や魅力を伝えること、マップによる来訪者の増加させることをめざしている。本ワークショップでは、仙台駅東側の宮城野通駅、連坊駅、薬師堂駅の3駅の徒歩圏を対象とするマップを作成する。この3駅周辺には、歴史・文化資源、学校が立地する住宅系市街地が広がっている。

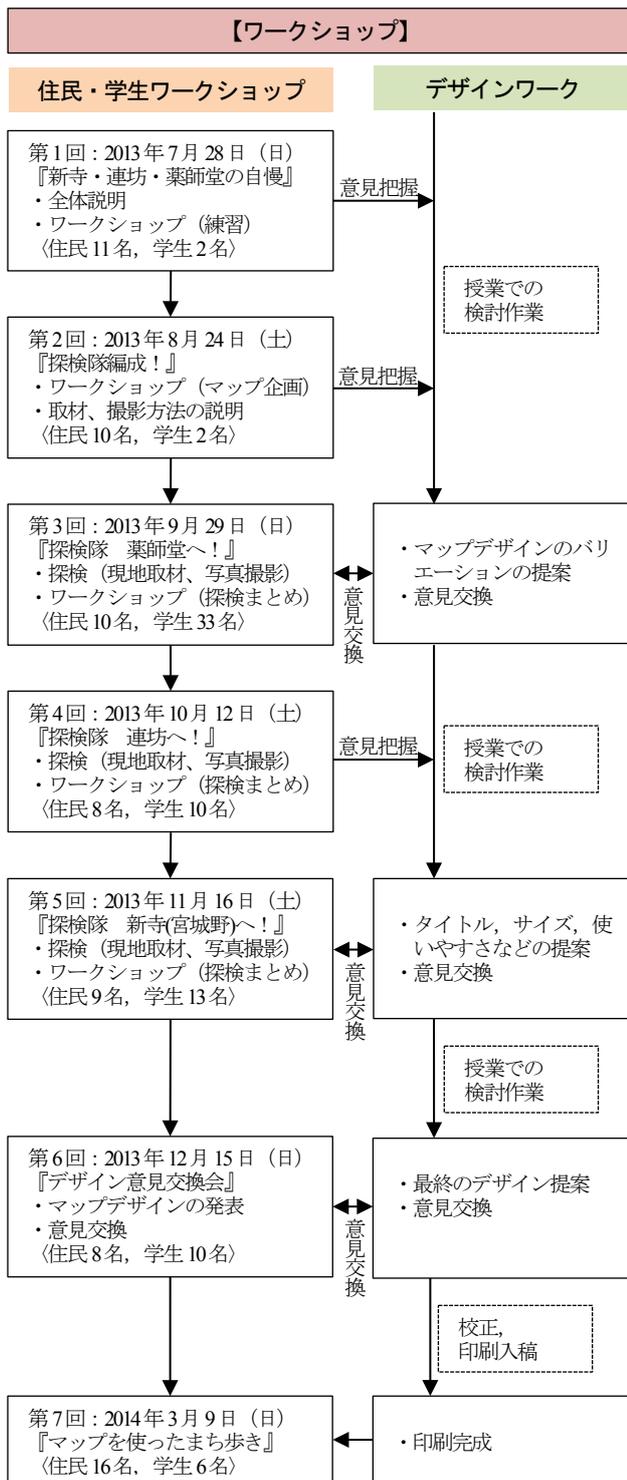


図3 ワークショップの経緯

(3) ワークショップの経緯

マップ制作のワークショップ名は、地域資源を発見しそれをアピールしようという意味をこめ、仙台市事務局により、「若林区東西線沿線魅力☆探検隊」と決定した。

住民と学生の参加するワークショップと、ワークショップでの成果と意見交換を受けマップデザインを行うデザインワークを設けた。ワークショップに参加する学生は工学系・デザイン系の学生である。デザインワークに

はデザイン系学生が参加し、授業「デザイン実習」の一環として作業した。ワークショップのコーディネータは本稿著者の森田、デザインワークは篠原が担当した。ワークショップ全体の事務局は仙台市若林区役所、若林区中央市民センターが担った。また、ワークショップのグループリーダー派遣、取材方法の説明、印刷については、仙台市から民間会社に委託した。

ワークショップの第1回は全体説明とワークショップの練習、第2回はマップの企画検討、取材や写真撮影方法の説明をした。第3回から第5回は、3駅周辺の現地取材と写真撮影に行った後、会議室に戻りとりまとめを行った。デザインワーク担当の学生はワークショップに参加し、マップ制作の意見を把握した。第3回ワークショップではマップデザインのバリエーションの提案、第5回ワークショップではタイトル、サイズ、使いやすさなどの提案をした。このように、ワークショップとデザインワークは相互に情報交換をしながら作業を進めた。第6回ワークショップにはデザインワークから最終のデザイン提案があった。そこでの意見を反映し、マップを校正・印刷し、第7回ワークショップではマップを使ったまち歩きをした。

(4) ワークショップによるコンテンツ検討

ワークショップにおいて、住民・市民が現地取材や写真撮影をし、マップのコンテンツ案としてとりまとめた成果を示す。表-2に薬師寺駅周辺の例を示す。

第3回のワークショップでは、住民と学生が8班に分かれ、薬師寺駅周辺の担当範囲を分担し、現地取材と写真撮影を行った。その後、会議室に戻り、班毎に取材結果を2枚の白紙の模造紙にまとめた。班によって異なるが、1枚目には取材結果を文字で整理し、2枚目には地図を描いて整理する班が多かった。その結果を班の代表者が発表し参加者全員で意見交換をした。ワークショップ終了後、事務局である仙台市職員が、全ての班の検討結果と意見を分類し、表に整理した。それを次回ワークショップ時に提示し、参加者の確認と意見交換を行った。他の連坊駅周辺、新寺駅周辺（後に正式駅名が宮城野駅に決定された）についても同様の作業を行った。

以上のような方法で作成した表-2から、住民と学生が参加することによる特徴を次のように整理する。

- 1) 「歴史・文化」に関しては、仙台市の観光案内にも掲載されている代表的な社寺があげられているが、取り上げられていない社寺もある。マップへの掲載、紹介のしかたについても提案がみられる。
- 2) 「自然・景観」については、自治体がマップを制作する場合には取り上げられることが少ないと考えられる「中央分離帯のラベンダー」「動物の形の街路樹」「貨物線」など、まちの小さな資源があげられている。

表-2 マップのコンテンツ案 (薬師堂駅周辺)

分類	コンテンツ案 (原文のまま)
歴史 ・寺院	<p>【寺院】</p> <p>1) 陸奥国分寺・陸奥国分尼寺→陸奥国分寺薬師堂 (B班・D班) ・ランドマーク的に掲載するとともに、詳細情報を「コラム」として掲載する方向で検討 ・「薬師堂」という地名の由来に絡めて紹介</p> <p>2) 保春院 (F班) ・伊達政宗の御母堂の位牌を祭っている ・「保春院」という名前の由来も紹介</p> <p>3) 仙台三十三観音 (B班) ・ランドマークとして掲載するとともに、マップデザイン的に可能であれば欄外にコメントを掲載</p> <p>4) 伊達八幡神社 (E班) ・休憩所がある</p> <p>【歴史】</p> <p>1) 木下駒 (B班) ・日本三銘駒のひとつ ・由来も併せて紹介</p> <p>2) 東街道 (E班) ・ランドマークとして掲載するとともに、マップデザイン的に可能であれば欄外にコメントを掲載</p> <p>3) 法領塚古墳 (F班) ・ランドマークとして掲載</p>
自然 ・景観	<p>【自然】</p> <p>1) 文化町の桜 (E班) ・堀と絡めて取り上げる方向で検討</p> <p>2) ウルスラ内のケヤキの木 (F班) ・ランドマークとして掲載</p> <p>3) 中央分離帯のラベンダー (H班) ・堀と絡めて取り上げる方向で検討 ・季節ものなので、ランドマーク的に掲載する方向で検討</p> <p>【景観】</p> <p>1) 動物の形の街路樹 (D班) ・白萩公園付近の道路脇にちよつとかわいいオブジェが立ち並び、安全運転を願う地域の方々のやさしい気持ちがあふれている</p> <p>2) 貨物線 (B班) ・マップデザイン的に可能であれば、ランドマーク的に掲載</p>
文化 ・生活	<p>【文化】</p> <p>1) 控木通 (A班) ・「控木通」という地名になった由来と「控」の字の由来を掲載する方向で検討 ・控木通以外の歴史的町名も併せて紹介することも検討</p> <p>【お店】</p> <p>1) ジョイランド (C班) ・Kスタでも置けない楽天グッズのひとつのぬいぐるみがここに置いている</p> <p>2) 丹野醸造 (D班) ・通称「ヒゲタン」 ・仙台市内及び周辺の高級料亭にも商品を卸す有名店</p> <p>3) かんのおや (E班) ・タクシーがよく止まる店 (人気店の目印)</p> <p>4) 松泉堂 (E班) ・「おおかや筆」、 「玉林堂」と共に、連坊小路界隈に明治・大正の頃に筆職人が多かった頃の名残り→筆塚がある (筆塚 (三宝大荒神にある) も入れる)</p> <p>5) えくぼや (G班)</p> <p>6) ガレージ一本杉 (H班) ・3.11震災後、自宅駐車場で始めた店舗も今年10月からはトレーラーハウスで営業 ・自転車の代車あり</p>

一方、非灌漑期に通水し水辺環境の改善を図っていることで著名な六郷堀・七郷堀は、他のコンテンツに関連して「取り上げる方向で検討」という扱いである。

表-3 マップのデザイン方針

<p>1) 若々しいデザイン＝スタイリッシュ 東西線が開通することで新しく変わって行く若林区の活力ある雰囲気を出したい</p> <p>2) アナログテイスト 歴史・自然も重要なポイント＝notデジタルテイスト ・色を塗り重ねたニュアンス＝「W」 (若林 WAKABAYASHIを示す、本稿著者注) ・ローラーペイント/カッター/スタンプ</p> <p>3) 折り加工にも工夫 表面とマップ面の関連性＝巻き四つ折り</p> <p style="text-align: right;">(原文のまま)</p>

3) 「文化」に関しては、控木通 (ごうらきどおり) という特殊な漢字にまつわる地域の文化の紹介が提案されている。「お店」については、自治体内で検討する場合には取り上げにくいと考えられる個人商店がコンテンツ案にあげられ、評判や特色が記載されている。以上より、住民・学生が参加により、自治体だけで検討するよりも、地域の小さな資源の詳細な情報が取り上げられていること、自治体が作成するマップに取り上げられる事項が含まれない場合もあることがわかった。

(5) まち歩きマップのデザイン

マップのデザインは、東北工業大学のデザイン系の学生9名が、ワークショップに参加し住民・学生と意見交換をしながら進めた。

第3回ワークショップでは、Webと連携したマップや傘の裏にプリントするマップなど、様々なバリエーションがあることを提案し、参加者に自由な発想でデザインに関する意見を出せるような下地を準備した。第5回ワークショップでは、デザインワークで検討したマップのタイトル、サイズ・折り加工などの仕様、使いやすさに関する提案をした。タイトルについては、「若の細道」「発見マップ」「若林WALKER」などが提案され、参加者で検討したとこと「若林WALKER」に決まった。サイズや折り加工については、様々な意見を得てデザインワークで検討することになった。第6回ワークショップ (デザイン意見交換会) では、カラーキャンブを元に最終案についてプレゼンテーションした。参加者は、実際に手に取りながら意見を出した。また、事務局からコンテンツ案の最終確認をした。

デザインワークでは、ワークショップでの意見交換を受け、表-3に示すデザイン方針をまとめた。地下鉄東西線の開通により新しく変わる「若々しいデザイン」であるとともに、歴史・自然を反映した「アナログテイスト」を備えたものである。さらに、あまり採用されないことのない折り加工「巻き四つ折り」とし、理解しやすく、見やすいデザインとした。



図4 若林WALKER (全体)



図5 若林WALKER (マップ面, 薬師堂駅版)

以上のデザインワークを経て、本稿著者でありデザイン監修担当の篠原が校正し、印刷入稿した。完成したマップの全体を図4に、マップ面を図5に示す。薬師堂駅版、連坊駅版、宮城野通駅版の3種類であり、各1万部印刷し、観光案内所、公共施設等で無料配布している。

(6) 自治体と大学の連携・学生参加による効果

(1)項に示すワークショップの体制で活動できたのは、仙台市と東北工業大学が協定を締結したことによる。仙台市にとっては、学生が参加することにより来訪者としての意見を得られる、ワークショップに活気が出る、大学のデザイン能力を活用できるなどのメリットがある。東北工業大学にとっては、まちづくりやデザイン教育の場として活用できる、地域貢献をすることにより大学の価値が上がるなどのメリットがある。

(4)項のコンテンツの検討において、住民・学生がワークショップに参加することにより、自治体だけで検討するよりも、地域の小さな資源の詳細なコンテンツ取り上げられていた。本分析では、学生が参加することによる効果だけを取り出すことはできなかったが、ワークシ

表4 調査概要

調査対象	ワークショップ参加者 (住民, 学生)
調査日	2013年12月15日: 第6回ワークショップ時 2014年3月9日: 第7回ワークショップ時 (第6回欠席者に対し追加調査)
調査方法	ワークショップ時に依頼, 配布, 回収
調査項目	問1 個人属性 (選択法) 問2 講座の参加履歴 (選択法) 問3 講座全般に関する評価 (5段階評価) 問4 講座の内容・方法に関する評価 (5段階評価) 問5 希望テーマ (自由記述)
回収数	22票 (住民14票, 学生8票)

ョップの様子を観察したところ、地域の歴史・文化に詳しい住民が学生に教えるようにして、コンテンツを提案している様子がみられた。

(5)項のマップデザインにおいては、仙台市と東北工業大学が協定を締結し、学生が授業の一環として参加し、大学のデザイン専門家の監修のもと、まち歩きマップを制作し印刷できた。

3. マップ制作活動に関する住民・学生の評価

(1) 調査目的と方法

従来のまち歩きマップ作成方法に対し、本活動が特徴的と考えられる、住民・学生参加のワークショップ、まち歩きによる現地取材、学生によるマップデザインに関し、住民と学生からの評価を得ることが調査目的である。

調査概要を表4に示した。ワークショップ参加者に対し、ワークショップ時に調査票を配布・回収した。ワークショップ全体と制作されたマップに関する評価を得るため、第6回、第7回ワークショップ時に調査を実施した。調査項目は、若林区中央市民センターが通常の講座に関するアンケート調査を行う際に用いる項目に、本研究で必要な項目を追加した。追加したのは、問4の「講座の内容・方法に関する評価」である。

学生参加によるマップ制作に関する評価を得るためには、学生参加を実施した場合と実施しなかった場合の評価を比較することが望ましいと考えられる。実施しない班を設定する、実施する回と実施しない回を設定するなどの方法は、ワークショップ事業を進める上では困難であった。そのため、住民参加者の多くは住民参加型の講座への参加経験があるため、これまでの講座との比較における評価結果を記入するよう依頼した。学生は講座への参加経験がほとんどないため、今回のワークショップに参加した経験のみから評価した結果となることに注意が必要である。

調査の結果、住民から14票、学生から8票、合計22票回収をできた。第1回から第7回のワークショップに継続

表-5 講座の内容・方法に関する評価

A.住民・学生参加のワークショップ		住民	学生
(1)自分の意見を盛り込むことができた	平均	38	40
	標準偏差	0.6	0.7
(2)地域の実情を反映することができた	平均	3.6	3.9
	標準偏差	0.7	0.6
(3)参加者と楽しく作業することができた	平均	4.4	4.3
	標準偏差	0.7	1.0

B.まち歩きによる取材		住民	学生
(1)地区をより知ることができた	平均	4.2	4.4
	標準偏差	0.6	0.7
(2)有用な情報を得ることができた	平均	4.1	4.0
	標準偏差	0.7	0.5
(3)参加者と楽しく取材することができた	平均	4.1	3.8
	標準偏差	0.9	0.8

C.デザイン系学生によるマップデザイン		住民	学生
(1)ワークショップでの意見を反映したマップを制作できた	平均	4.0	4.3
	標準偏差	1.0	0.7
(2)取材の結果を反映したマップを制作できた	平均	4.0	4.1
	標準偏差	0.7	0.6
(3)よい内容のマップを制作できた	平均	4.0	3.5
	標準偏差	0.9	1.1
(4)よいデザインのマップを制作できた	平均	3.9	3.5
	標準偏差	0.9	1.0

平均：5段階評価平均値（高い評価 5-4-3-2-1 低い評価）
 サンプル数：住民14，学生8

的に参加したほとんどの住民・学生から回収できたものの、サンプル数が少ないことに留意が必要である。

(2) マップ制作活動に関する住民・学生の評価

本分析では、住民・学生参加のワークショップにより自分の意見や地域の実情を反映することができ、自ら取材することにより地区を知り有用な情報を得ることができ、デザイン系学生によるマップデザインによりよい内容・デザインのマップが制作できるという仮説を設定する。そのため、講座の内容・方法に関する調査項目は、住民・学生参加のワークショップ、まち歩きによる取材、デザイン系学生によるマップデザインに関する調査評価とした。

集計結果を表-5に示す。住民の評価結果をみると、それまで参加した講座に比べ概ね高い評価が得られているが、住民・学生参加によるワークショップについては、参加者と楽しく作業することができたとの評価が高い。まち歩きによる取材、デザイン系学生によるマップデザインについても4前後の高い評価が得られた。学生の評価結果についてみると、それまでは講座への参加経験はないが、住民・学生参加のワークショップで参加者と楽しく作業することができ、まち歩きにより参加者と楽しく取材ができ、ワークショップでの意見や取材結果を反映したマップを制作できたという評価の傾向がある。

以上より、住民・学生参加によるマップ制作について、分析仮説に基づく効果を確認できたと考える。すなわち、住民と学生の双方から、楽しく参加でき、まち歩きによる取材を有効であり、よいマップが制作できたと考えていることがわかった。ただし、住民・学生参加の実施した場合と実施しなかった場合の比較については、今後の研究課題として取り組む。

4. おわりに

(1) まち歩きマップ制作後の展開

文部科学省は、平成25年度（2013年度）「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を公募した。この事業は、大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている⁹⁾。東北工業大学は、仙台市を連携自治体とし「せんだいオールキャンパス化事業」を応募したが、不採択であった。

平成26年度（2014年度）の応募に向け、仙台市と東北工業大学が2013年5月に「まちづくりにおける連携・協力に関する協定（以下、協定とする）」を締結し、2014年4月に東北工業大学地域連携センターを設立した。また、全学で地域連携による教育・研究・社会貢献活動を強化した。最も大きな課題は「地下鉄東西線沿線まちづくりにおける地域課題」と認識し、「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」として応募した。代表的な教育・研究活動例として、本研究におけるまち歩きマップの現物をプレゼンテーションに用いた。多くの活動実績を積み重ねることにより、事業が採択された。

また、平成25年度（2013年）の宮城野通駅、連坊駅、薬師堂駅周辺のまち歩きマップ制作に引き続き、平成26年度（2014年度）は薬師堂駅の東の卸町駅を対象にマップ制作をすることとなった。東北工業大学では、卸町駅周辺のまちづくり支援を強化しているため、まち歩きマップ制作のみならず、まちづくり支援を含めた活動を行うことが課題である。

(2) 研究のまとめと課題

本研究は、仙台地下鉄東西線の駅周辺のまち歩きマップの制作活動において、協定に基づく住民・学生参加の効果を評価することを目的としていた。マップ制作活動の効果は、関連組織である自治体と大学へ与える効果、住民と学生の評価からみた効果で把握した。

その結果、協定に基づくことにより、仙台市にとっては、学生が参加することにより来訪者としての意見を

られる，ワークショップに活気が出る，大学のデザイン能力を活用できるなどのメリットがあった．東北工業大学にとっては，まちづくりやデザイン教育の場として活用できる，地域貢献をすることにより大学の価値が上がるなどのメリットがあった．また，住民，学生の双方から，住民・学生参加のワークショップ，まち歩きによる取材，デザイン系学生によるマップデザインの効果を確認できた．

大学の計画系の授業では，地域をフィールドとした教育が求められている場合が多いが，フィールドの確保，学生の意欲の向上，指導者の確保，成果の実現性などの課題がある．これら課題に対し，本研究のマップ制作活動を対象とした研究成果は，その解決の一助になると考える．

協定による自治体と大学の連携に基づく住民と学生の参加による効果は一事例により得た成果である．今後の活動の積み重ねを通じ，より一般化した効果を把握し，自治体と大学の連携による学生の教育と住民の生活質向上のモデルとしての知見を得たい．

謝辞：本研究を遂行するにあたり，ワークショップ参加者，取材対象者の多大な協力を得た．また，仙台市若林区役所，若林区中央市民センターの協力と助言を得なければ研究は実現しなかった．また，東北工業大学都市マネジメント学科学生，クリエイティブデザイン学科の学生（篠原研究室），東北工業大学地域連携センターの協力を得た．ここに感謝の意を表す．

参考文献

1) 加藤真吾，長谷川修一，野々村敦子，山中稔：住民

- と専門家の協働作業による防災マップの作成と課題，土木学会年次学術講演会講演概要集，Vol.62，第IV部，pp.477-478，2008.
- 2) 野田辰浩，山崎惟義，渡辺亮一，伊豫岡宏樹，皆川朋子：校区単位での住民参加型内水ハザードマップ作成に関する研究，土木学会年次学術講演会講演概要集，Vol.66，第II部，pp.251-252，2011.
- 3) 樋野公宏，真鍋陸太郎，小出治：各種主体との協働による地域安全学習の成果と課題－「カキコまっぷ」を活用した地域安全マップづくり－，都市計画報告集，No.3，pp.59-62，2004.
- 4) 村中亮夫，谷端郷，中谷友樹，花岡和聖，白石陽子：住民参加型安全安心マップ作成のワークショップへの参加の行動規定要因－京都府亀岡市におけるセーフコミュニティ活動の事例分析－，都市計画論文集，No.45-3，pp.325-330，2010.
- 5) 樋野公宏，雨宮護，杉崎和久：地域主導で作成する安全マップのまちづくりへの活用要件－松山市久米地区における公園改善を事例として－，No.48-3，pp.243-248，2013.
- 6) 湯本紗代子，川向正人，山中章江：北西部まち歩きマップづくり～レイヤーを重ねる～，建築デザイン発表梗概集2010，pp.28-19，2010.
- 7) 北雄介，宮部真衣，荒牧英治：集合知による街の感じ方の地図のデザイン－街歩きイベント「100人でつくる京都地図」を通じて－，都市計画報告集，No.12，pp.54-60，2013.
- 8) 仙台市：東西線沿線まちづくりの基本方針 進化する都市・仙台～東西線が創る新しい暮らしと仙台の未来～，2013.7.
- 9) 文部科学省：「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」ホームページ，http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/，2014.8.1（閲覧）．

(2014.8.1 受付)

EVALUATION ON THE DESIGN PROJECT OF TOWN MAP BASED ON THE COOPERATION OF LOCAL GOVERNMENT AND UNIVERSITY

Tetsuo MORITA, Ryota SHINOHARA, Hajime INAMURA, Shinya TSUKADA and Akira YUZAWA